

平成 27 年 10 月 7 日

横林小学校保護者の皆様

小規模特認校推進委員会委員長 印南 洋人
" 土曜教室実行班長 東泉 秀幸
那須塩原市立横林小学校長 村島 保夫

土曜教室へのお誘い

秋晴れの中、横林小学校の児童も元気に活動しているようです。皆様方におかれましては、日頃より横林小学校の教育活動への御支援、御協力を賜りまして心よりお礼申し上げます。

さて、小規模特認校としての認定も 3 年目を迎え、今年度は「土曜教室」が開催される年度です。前半、「生きもの調査」には大人、児童含めて延べ 98 名の参加をいただき、5 回もの実施がなされました。主宰スタッフの御尽力にもお礼申し上げます。

今回、当初より予定されていた「土曜教室」を下記の通り企画しました。秋の半日、減多に行かない箒川の上流で紅葉を楽しみながら、楽しく地域体験ができればと思います。是非、奮って御参加くださいますようお願い申し上げます。お子さんにも興味もてるよう、クイズなど出しながらか見学します。

記

- 日時 平成 27 年 10 月 24 日（土曜日）10 時より ～午前中解散（雨天決行）
* 当日保体部によるマラソンコースの整備が 8 時半より行われます。
これを考慮し、お子様のみの参加や遅れての参加も大丈夫です。
- 内容 「墓沼用水の源流をたずねて」
10 時学校出発 — 墓沼用水の取り入れ口 — 折戸発電所 — 学校
* 車に分乗して回る予定です。歩きやすい靴、水筒を持参させてください。
保護者の皆様の参加（車）を是非よろしくお願ひします。
- 設定の趣旨

横林、接骨木の歴史は水利開発の歴史でもありました。古くは慶長年間（秀吉から徳川幕府開設の時代）蛇尾川沿いの 5 か村の飲用水確保のために、蛇尾川上流を取り入れ口とする用水が、先人の苦勞で掘削されました。これが現在も学校の脇を流れる墓沼用水の始まりです。

その後、大田原藩により御用用水として管轄下に置かれ、大田原城下を潤すために使用されました。そのため水田に水を引くことは禁止で、飲用のためだけに限定されていました。水田を作ることが認められたのは明治 24 年のことでした。その後、私たちの先祖は苦勞して水田を開墾してきて今の接骨木街道のような、稲穂の実る土地になりました。那須野が原は扇状地のため、水が地中にしみこんでしまい、稲を作ることができませんでした。現在のような発展を助けたのは墓沼用水の農地水開発だったのです。

今回、土曜教室でこの墓沼頭首工（蛇尾川からの取り入れ口）を見学し、この地域の歴史に重要な位置を占める「水」との戦いの跡を見るとともに、現在、電力開発のためにも利用されている折戸の少量ダムを眺めて、現在の活用事業を確認してきます。毎日見て通学している墓沼用水ですが、その歴史的意義を親子で体感してみてください。是非、一度は行ってみませんか!?

----- きりとりせん -----

10 月 24 日の土曜教室に参加します。

() 年 児童名 () ()

参加して下さる保護者名 ()